



秋の島路へ

No. 78
Autumn

だより 議会

しょうどしま

contents

審議議案

9月定例会

決算特別委員会

一般質問

5人の議員が質問

議会あれこれ

2025 令和7年11月1日発行

小豆島町



令和7年第3回定例会(9月10日、19日 10日間)

本定例会では、令和6年度決算認定をはじめ、予算案件2件、条例案件2件、契約案件2件、その他案件2件のほか諮問1件が提案され、慎重審議の結果、全て原案通り可決されました。

《一般会計補正予算》

(7億3026万円)

◎地域経済循環創造事業

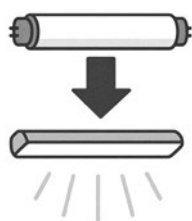
(5400万円)

産業の連携により地域の資源を活用した新たなビジネスの立ち上げを支援するものです。

◎小豆島中学校照明LED

化事業 (1507万円)

2027年末をもって蛍光灯の製造・輸出入が廃止されることから、照明器具をLED化するものです。



◎小高西線拡幅事業

(4300万円)

内海地区統合小学校通学路整備事業に係る工事において、労務単価の上昇や物価高騰による工事価格の高騰などにより不足する予算を増額するものです。



統合小学校横西側道路

◎障害者グループホーム

(ソレイユB) 整備補助

事業 (1511万円)

国の補助金不採択により、小豆郡2町が追加で建設費用を補助するものです。



グループホーム建設予定地(土庄町湊崎)

◎地域活力向上総合交付金

事業 (440万円)

県の補助金により農業での地域活性化や地産地消新ブランド化により次世代人材育成や関係人口を創出するものです。

◎城山会館外壁等改修事業

(454万円)

物価や労務単価の上昇により不足する費用です。

◎吉野崎港未舗装部分修繕

事業 (500万円)

越波や雨水等によりわだちが発生するため、アスファルト舗装工事を行うものです。

◎三都港護岸改修事業

(400万円)

護岸崩壊により背後地浸食の恐れがあるため、ブロック積擁壁工事を実施するものです。

◎地域おこし協力隊活用事業

業 (458万円)

一人は、オリーブバス(株)で運転業務に従事しつつ、島の公共交通活性化の取り組みを行います。

◎ポンプ場修繕事業

(248万円)

植松ポンプ場(安田)および片城ポンプ場において部品老朽化により修繕を行うものです。



◎高校生海外留学支援補助

事業 (492万円)

海外留学実績が確定したことによる予算の増額です。

◎福祉避難所の体制整備支援事業

(480万円)

災害時の福祉避難所(マリアの園・サンシャイン会)となっている施設の受入体制充実のための施設改修等に対し補助するものです。

◎副業型地域活性化起業人
活用事業（258万円）

「20年先の小豆島をつくるプロジェクト」においてスマート農業の可能性を検討し、農業人材確保に向け調査等を行うものです。

スマート農業とは

ロボットやAIなど最先端技術を活用し、農業の省力化、生産性向上、環境負荷の低減、技術継承の円滑化を目指す新しい農業のあり方です。



◎Jーアラート更新事業

（380万円）

国（消防庁）のシステム更新事業に伴うものです。

◎映画村木造校舎修繕補助事業（198万円）

シロアリ被害が発生したことによる（一財）岬の分教場保存会への緊急修繕補助です。



映画村シロアリ被害

◎安田馬場公園遊具撤去工事（95万円）

国道436号拡幅工事により用地買収の対象となるため遊具を年度内に撤去するものです。

《介護保険事業特別

会計補正予算》

（1116万円）

国や県等からの介護保険給付および地域支援事業に係る令和6年度の交付金について精算し返還をするものです。

《契約案件》

【馬木バイパス管路布設工事（1工区）】

内海八幡神社北側階段入口から県道坂手港線まで管路を布設するものです。

工期は令和7年度末までです。

▼相手方 ㈱香川舗道

▼契約金額 9504万円



馬木バイパス管路布設区間

【内海地区統合小学校建設工事】

◎電気設備工事

新校舎建設に係る電気設備工事です。工期は令和8年12月28日までです。

▼相手方 田中電気工事㈱

▼契約金額

3億129万円



統合小学校完成予想図

第3回 臨時会

7月28日

契約案件2件が提案され、全て原案通り可決されました。

【内海地区統合小学校建設工事】

校舎本体および機械設備に係る工事で、工期は令和8年12月28日までです。

◎建築工事

▼相手方

合田・香川舗道特定建設工事共同企業体

▼契約金額

19億4700万円

◎機械設備工事

▼相手方 ㈱フソウ

▼契約金額

3億4980万円

総務建設常任委員会

9月3日

ふるさと村再整備事業について商工観光課から説明がありました。

【決算特別委員会】

「令和6年度小豆島町歳入歳出決算認定について」は、9月12日から17日の3日間開催されました。※決算特別委員会は、令和6年度の予算が適正に執行されたか審査し、行政効果・経済効果を住民に代わり評価するものです。



《一般会計決算総額》 過去最大規模

歳入決算 142億714万5千円

歳出決算 130億5252万9千円

令和6年度一般会計決算額は、ふるさと納税が過去最大の寄付額となったことや、坂手ポートターミナル整備、内海地区統合小学校整備、防災行政無線再整備など大型の社会資本整備があったことから、歳入・歳出ともに過去最大規模となりました。

◎注目事業へのコメント

▼ふるさと納税推進事業

寄付額 13億877万円



羽田議員

まちづくりの貴重な財源であり、寄付者の意向を踏まえ、子育て支援や産業振興等に有効に活用している。香川県では2位の寄付額となっており、多方面にわたる情報発信の成果が大きな要因の一つと推定できる。



川井議員

努力の成果で増加している。オリーブオイルは倍増。本年も順調であり、継続して推進を。

▼地域経済循環創造事業

決算額 1億5755万円



高橋議員

国の交付金を活用した地域密着型ビジネスの申請が7件あった。島の魅力を発信し、地域の活性化につながることを期待する。

▼備蓄物資購入事業

決算額 49万円



大下議員

災害時に避難所へ行けば何とかなるというものでもない。基本的に家庭での備えが大切。しかし、生活用水の確保は難しい。行政の対応を期待したい。

▼持続可能な観光推進事業

決算額 385万円



高尾議員

SDGsが掲げる誰一人取り残さない社会を目指すため、「食の多様性（フードダイバーシティ）の島」「健康長寿の島」などのブランドができることを期待する。



食の多様性についての説明会

委員会の質疑応答

◎オリーブ課

◇谷議長

結婚・出産・小学校入学の際にオリーブの苗木を渡しているが、庭に植えることができない場合がある。他の場所で植栽できれば人生の記念となるのではないのか。

回答

面積の確保や管理が難しい。家での栽培が難しい場合は、苗木を取りに来られない場合が多い。

◇塩田委員

栽培面積はあまり増えていない。また、高齢になると耕作放棄地が増えるのでは。

回答

新たに植える場所が少なくなってきたが、新品種の栽培拡大に期待したい。また、若手農家への事業継承支援も行う。



決算特別委員会

◎農林水産課

◇河井委員

タヌキは捕獲奨励金の対象外であるが、今後は。

回答

検討したい。

◎建設課

◇高橋委員

内海地区統合小学校の周辺道路はいつ整備予定か。

回答

西側は現在拡幅工事をしている。学校前の道路は、令和8年度から順次工事予定である。

◎生涯学習課

◇中川委員

西村の勤労青少年ホームしんちやうぐの進捗状況は。

回答

他の教育施設のあり方と合わせ検討している。

◇鍋谷委員

地域おこし協力隊によるキッズスポーツパークが好評であるが、常設は。

回答

他のイベントもあり人員配置が難しい。月1回（2日間程度）が限界である。



キッズスポーツパークの様子

◇中松委員

統合後の学校支援ボランティアのあり方はどう変わるのか。

回答

見守り活動や環境整備等の学校支援ボランティアは重要である。今後、新小学校での学校支援ボランティアのあり方も検討していきたい。



決算特別委員会

決算特別委員会審査報告

令和6年度歳入歳出決算認定については、次の意見を付して認定されました。

【こども教育課】

奨学資金貸付事業について貸付金の返還が滞っている状態にあるため、適正な管理を行い、未収金の回収に努められたい。

財政健全化法に基づく報告

健全化判断比率四財政指標と介護保険事業の資金不足比率について全ての値が健全な状態であると報告がありました。

実質公債費比率は5.4%で前年度より0.4%改善しています。将来負担比率は、△129.9%となっており、引き続き堅調に推移しています。

町政へ

一般質問

議員が行政全般にわたり、住民の声や自身の調査研究をもとに、町長や教育長などの執行機関に対し、事務の執行状況や方針などについて質問したり、報告や説明を求めたりすることです。



質問内容	質問者	掲載ページ
▷利用者思いの奨学金制度へ	安井 信之	7 ページ
▷オリーブ産業の考え方は		
▷ごみの再資源化促進を	河井 修	8 ページ
▷防災会議の開催予定と防災計画は	川井 茂	9 ページ
▷外国人との共生社会の取り組みは	鍋谷真由美	10 ページ
▷不登校児も親も安心できる支援を		
▷来春の町長選挙への出馬の意向は	羽田 満	11 ページ

≡ 動画配信中 ≡

本会議での一般質問の様子を『YouTube』で録画配信しています



こちらから

≡ 傍聴できます ≡

本会議はどなたでも傍聴できます
『傍聴』を希望される方は、本会議当日に、議会事務局までお越しください



こちらから



やす い のぶ ゆ き
安井 信之



質問者の動画は
こちらです

問 町の奨学金制度から日本学生支援機構の奨学金制度への移行は、利用者に対してきめ細やかな対応が取られないのでは。

問 利用者思いの奨学金制度へ

答 人材確保のため見直しを検討

答 現制度は、奨学金の無利子貸付であり、さらに一定の条件での返還免除制度となっており、町内の人材確保のためのUターンも狙ったものである。

今回の見直しでは、こども教育課と健康づくり福祉課所管の2つの制度を二本化し、日本学生支援機構の奨学金利用者を対象に、島内での就業等を条件に返還額に対する補助を行う予定だ。対象者は、町内出身者だけでなく、移住者も対象に考えている。メリット、デメリットを全体的に



主要な産業オリーブ

問 オリーブ産業の考え方は

答 支援をしておりますこれからも続ける

考え、見直しを検討している。

問 学校給食でオリーブオイルの使用を減らしているが、島のPRのため、取り組みを継続すべきでは。

答 オリーブを用いた健康長寿の島づくり事業の一つとして、町内の学校給食で全面的にオリーブオイルを使用し、また、オリーブ公園でオリーブオイルの住民向け販売をしている。しかし、様々な要因でオリーブオイルの仕入価格が高騰し、令和7年度から学校給食

の調理油をオリーブオイルから大豆油および菜種油に切り替え、住民向けオリーブオイルの販売を終了した。給食のオリーブオイル使用については、価格が下がれば使用を検討したい。

問 オリーブのPRのため、給食でのオリーブオイル使用の効果について健康調査を行うべきでは。

答 健康効果は、学校給食でオリーブオイルに代えただけでは検証が難しい。

オリーブのPRはこれまででしっかりしており、これからも継続する。



かわい おさむ
河井 修



質問者の動画は
こちらです

問 ごみの再資源化促進を

答 リサイクル率向上を促進する

問 燃やせないごみ袋の中に缶、ビン、ペットボトルが混入されているのを見かける。より一層の分別の徹底を周知し、ごみの減量を目指すべきでは。

答 町では、資源ごみとして、缶、ビン、紙類のほかプラスチック類としてペットボトルや発泡スチロール、食品トレイを分別、回収しており、処理について

は小豆地区広域行政事務組合で共同処理している。しかし、資源化できる缶、ビン、ペットボトルが不燃ごみに混入しているという、分別が十分でないケースも確認されている。分別は、住民の皆様の行動に委ねられているのが現状であることから、今後でも可燃、不燃、資源ごみの分別について

一層の啓発に努め、リサイクル率の向上を促進していく。

問 現在、最終処分場に搬入、埋め立てられているごみの中には再資源化できるものが多くあると思われる。町として今後どのような施策で対応しようとしているか考えを伺いたい。

答 ごみの再資源化・減量化のための中間処理施設は現在、施設整備の再検討を行っている。

新しい中間処理施設が整備されることにより、埋立処分されているごみの資源化を含め、リサイクル率の向

上とごみの減量化につながると考えている。



徳本地区埋立処分地



かわ い しげる
川井 茂



質問者の動画は
こちらです

問 防災会議の 開催予定と防災計画は

答 計画の改訂案作成後に開催する

問 町の防災の要に「小豆島町防災会議」があると考えている。その防災会議、次回はいつ開催されるのか、また防災計画の変更点や方向性は。

答 9月2日公表の香川県地震・津波被害想定の見直しを受け、今後、必要箇所の改訂、計画の見直しを行い、新たな計画案を作成し、その時点で防災会議を開催する。

現時点で防災会議の開催時期は未定だが、新たな被害想定に対応し、防災計画の変更箇所を改訂案に反映させていく。

問 前回の防災会議が令和3年6月に開催されており、4年3カ月間この会議がなかった。「災害対策基本法」にも、「防災会議条例」にも開催規定はないが、地方防災会議は年に1度以上は開催されることが一般的である。土庄町は毎年2月に開催している。この防災会議の頻度、程度は。

答 町の災害に関する計画や重要事項、審議する防災会議の重要度も増している。被害想定が大きく変わっており地域防災計画の改訂は

急がなければならない。今後、開催の頻度を増やして、計画の改訂を行っていく。

問 防災会議は公開と聞いているが、傍聴は許されるのか。

答 過去に傍聴の例はないが、今後傍聴を検討していく。

問 防災会議編成委員の女性比率は、全国で7.3%、香川県は14.6%であり、町の23.3%は高く評価できる。今後増やす予定は。

答 必要に応じて増やしていきたい。



小豆島町総合防災訓練



なべたに ま ゆ み
鍋谷真由美



質問者の動画は
こちらです

問 外国人との 共生社会の取り組みは

答 日本語サロンなどを行っている

問 日本に住む在留外国人数は、3年連続で過去最高を更新している。町内にも26力国230人が居住しており、文化の違いや言葉の壁を乗り越え、外国人との共生社会をつくっていくことが重要だ。

ところが、7月の参議院選挙では、外国人を差別する根拠のないデマや差別扇動があるなど、外国人敵視

の排外主義があらわれた。

外国人との平和的友好関係を築くためにも国際人権規約やヘイトスピーチ解消法などに照らしても、排外主義は許されない。町長の見解は。

答 全国でヘイト、排外主義に該当する事案があることは、非常に残念。そういう事案がないよう取り組む考えた。

問 外国人の支援施策の現状は。また、今後の取り組みとして、多文化共生指針をつくることや支援員の配置はどうか。

答 令和3年度から3年間日本語教室を開催し、令和6年度からは、日本語サロンや交流会、苗羽小学校での国際交流授業を行っている。

外国人に対する偏見や差別が起らないよう、町広報誌への掲載や講演会、交流会などを開催し、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。多文化共生指針や計画の策定予定はな

い。日本語サロンスタッフが支援に当たると認識している。

問 日本語ができない児童生徒に対する学習支援の充実はどうか。

答 県から配置される非常勤の日本語指導員は時間数が限られるため、町費で日本語指導員を配置している。現在、池田・苗羽小学校に1人ずつ配置、授業のサポート、日本語学習の支援などを行っている。指導員が確保できない場合、翻訳機の導入で支援する。



毎月開催の日本語サロン

こちらも
質問

問

不登校児も親も
安心できる支援を

答

個別に寄り添った

支援が必要



はだみつる
羽田 満



質問者の動画は
こちらです

問 来春の町長選挙への 出馬の意向は

答 立候補し、

町の未来に全力を尽くす

問 令和4年4月に町長に就任し、小豆島の観光協会の一化、内海地区小学校の統合、坂手港の再整備、北条地区更新住宅の整備など、長年の懸案課題に取り組み、町政を着実に前へと進めてきた。一方で、町民の生活に直結する重要な課題は山積しており、町長の引き続きのリーダーシップを期待する声も

大きい。については、来春の町長選挙への出馬の意向はどうか。

答 町長就任以来、次代に夢をつなぐ、持続可能なまちづくりを基本理念に全力で取り組んできた。3年半前、選挙公約に掲げた施策について、実現できたもの、実現に至っていないものもありますが、取り組んでいないものはない。町にとって島

にとって必要な施策を、スピード感を持って実行してきた。

町営住宅は建て替えや集約化を進めているが、内海地区の幼稚園、保育所の再編、老朽化が激しい社会教育施設や体育施設などの見直し、埋立完了後の県有地を含む草壁港周辺の活性化など、多くの課題が挙げられる。

こうした現状を踏まえ、今年度の施政方針で、変えるべきは変える、なくすべきはなくす、挑戦すべきは果敢に挑戦するとの基本方針を掲げ、行政運営の

見直しを進めている。町の未来、島の未来に一直線というスローガンを掲げたとおり、今まで積極果敢に走り続けてきましたが、1期4年間はまだまだ道半ばにもたどり着いていないと考えている。

私は、来春の次期町長選挙にぜひ立候補させていただき、町民の皆様の負託をいただけるならば、町政運営のかじ取り役として不退换の覚悟を持って、町の未来、島の未来のために全力を尽くしたい。



西寒霞溪から池田湾を望む

小豆郡町議会議員研修会

▼開催日 7月29日

▼場所 オリビアン小豆島

「役所を動かす質問の仕方」をテーマに地方議員研究会統括コンサルタントの川本達志氏を講師に迎え研修会を開催しました。一般質問のテーマ選定方法やデータの収集方法など議員にしかできない政策提案型の質問になるような助言をいただきました。



小豆郡町議会議員研修会

香川県町議会広報クリニック

▼開催日 7月2日

▼講師 自治体広報公聴研修所

代表理事 金井茂樹氏

「戦略的広報と議会報づくりの型」の講演および町広報誌の添削を頂きました。

情報発信の種類をはじめ、読者の意識や行動変容につながる議会報についてご講義頂きました。

他の自治体等の広報誌への指摘も踏まえ、読み手に伝わる広報誌となるよう今後は皆様からのご意見お待ちしております。



自治会館での広報クリニック

議会あれこれ

6月

4日 議会運営委員会

12日 第2回定例会

総務建設常任委員会
(請願付託審査)

広報編集特別委員会

小豆島中央病院企業団臨時会

7月

2日 香川県町村議会議長会

広報クリニック研修会

7日 広報編集特別委員会

9日 広報編集特別委員会

18日 全国離島振興市町村議会議長会【東京】

28日 議会運営委員会

第3回臨時会

29日 小豆郡町議会議員研修会

30日 香川県離島振興市町村議会議長会総会・研修会

【多度津町】

8月

6日 香川県町村議会議長会

監事会【高松市】

18日 香川県町村議会議長会

定例会【高松市】

27日 小豆郡町議会議長会定例会

編集後記



澄んだ空気に冬の足音を感じる季節となりました。

秋の瀬戸芸も終盤に近づき、寒霞渓では、赤や黄色に色づく木々が山肌を鮮やかに彩り、島内外から多くの方が訪れる紅葉の名所へと様変わりしていきます。

観光地として知られる小豆島ですが、私たち地元住民にとっても、改めて自然の豊かさや移ろいを味わう絶好の機会です。

忙しい日常の合間に、足を止めて身近な絶景を眺めることで、心にも新たな力が湧いてくるのではないのでしょうか。

この島に暮らす幸せを再確認できる季節を、皆さんもぜひお楽しみください。

中川 光秋 記

本紙に対する
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4492 香川県小豆郡小豆島町片城甲44-95 TEL (0879) 82-7060 FAX (0879) 82-7061
E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp